

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	病理学3（概論）	
科目基礎情報					
開設学科	柔道整復科	コース名		開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	教科書（病理学 - 社団法人 全国柔道整復学校協会 監修-）に準拠する。				
担当教員情報					
担当教員	岡本 純佳	実務経験の有無・職種	有・医師		
学習目的					
<p>病理学とは、病気の原因・発生機序の解明や病気の診断を確定するのを目的とする医学の一分野である。細胞・組織・臓器の標本を、肉眼や顕微鏡などを用いて検査し、それらが病気に侵されたときにどういった変化を示すかについて研究する学問である。取得を目指す柔道整復師免許が医療資格であることを理解し、資格取得後に患者の患部へ施術をすることを業務とすることから、それに伴い様々な疾病について熟知する必要がある。病理学を学ぶ目的は、柔道整復師が日々の施術において患者に対して注意を要する事項を把握し、外傷・障害への手当てを担う専門家として国民の健康保持に寄与することができる人材育成がねらいである。</p>					
到達目標					
<p>病理学の基本的知識が、柔道整復師にとって必ず習得しなければならないことであるというまでもなく、日々進歩している医学・医療に対応できるように疾病の原因、経過、本態、他の疾病との鑑別、治療効果などについて理解することが必要である。具体的には、病気で異常になった部位（病変部）を目で見て（肉眼的観察）、顕微鏡でさらに詳しく見て（顕微鏡的観察）、どのような変化があるのか、どのような状態なのか、原因は何か、などを論理的に読み解いていく学問である。医療現場における施術の土台を形成することを目標としている。</p>					
教育方法等					
授業概要	教科書を中心とする。病理学を学ぶ目的の一つとして、生体に起こる色々な病変や疾患が、どんな原因で起こり（病因）、どんな変化を生じ（病変または疾患）、どのように推移し（経過）、最後にどうなるのか（転帰）などの、いわゆる病変や疾患の本質をよく理解することが大切である。				
注意点	国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。また、授業中の態度（私語・飲食・居眠り）には厳しく対応する。常に医療現場にて患者に適切な応対ができるマナーを身につけるような心掛けを求める。なお、授業時数の4分の1以上欠席した者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	100%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	0%			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	炎症①	炎症の五大徴候（発赤・発熱・腫脹・疼痛・機能障害）について理解する			
2回	炎症②	炎症の原因である感染症・物理的傷害・化学的傷害について理解する			
3回	炎症③	炎症の形態学的変化である循環障害・滲出（浮腫や浸潤）・組織増生について理解する			
4回	炎症④	炎症の分類（経過・形態各分類）について理解する			
5回	免疫異常、アレルギー①	免疫の仕組み（抗原・抗体・液性免疫・細胞性免疫・補体系・サイトカイン）について理解する			
6回	免疫異常、アレルギー②	免疫不全（先天性免疫不全・後天性免疫不全）について理解する			
7回	免疫異常、アレルギー③	自己免疫疾患の代表例（全身性エリテマトーデス・関節リウマチ・強皮症など）について理解する			
8回	前期7週までの振り返りと確認演習	1回～7回の知識が蓄積されているか確認する			
9回	免疫異常 アレルギー④	アレルギーの5型（I型～V型）について理解する			
10回	腫瘍①	定義・肉眼的形態・腫瘍細胞・腫瘍の組織構造について理解する			
11回	腫瘍②	腫瘍の発育諸段階・生体への影響について理解する			
12回	腫瘍③	発癌の原因・癌の診断と治療について理解する			
13回	腫瘍④	分類・悪性腫瘍・主要な癌（胃・肺・大腸・肝・腎・子宮・乳・前立腺・小児）について理解する			
14回	前期13週までの振り返りと確認演習	9回～13回の知識が蓄積されているか確認する			
15回	まとめ	半期で取得した知識の確認			